

6 対象大学関連データ要約

予備調査により収集したデータを、HEDS-USAID PDM の指標に従って以下のように要約した。

A. “プロジェクトの目的”

1. 工学教育の質の向上

1-1) 対象大学 (TU) の生産性: 入学者総数に対する学位取得者の比率

年	UNSRI	UNAND	UISU	UNSYIAH	UHN	UNLAM	USU
1994	138	71	81	88		73	263
	2,167	866	1,255	1,297	N/A	520	2,735
	6.4%	8.2%	6.5%	6.8%		14.0%	9.5%

年	UDA	UMA	UNILA	UNTAN		所見
1994	73	94	42	112		
	552	913	572	1,230		
	13.2%	10.3%	7.3%	9.1%		

*比率: (学位取得者数/総学生数) × 100%

1-2) 大学の S1 学生の修業年限 (平均年)

大学	FY89	FY90	FY91	FY92	FY93	FY94	学部数
UNSRI	N/A	5.6	5.6	5.4	5.5	5.9	5 学部
UNAND	N/A	N/A	N/A	6.0	6.2	6.0	2 学部
UISU	N/A	7.1	7.1	7.3	7.1	5.7	4 学部
UNSYIAH	N/A	6.6	7.3	6.7	6.7	7.1	3 学部
UHN	N/A	7.7	7.2	7.3	7.8	6.4	3 学部
UNLAM	N/A	6.8	6.6	6.8	6.7	6.7	1 学部
USU	N/A	N/A	7.7	7.5	8.0		6 学部
UDA	N/A	N/A	5.6	5.4	5.6	6.2	3 学部
UMA	N/A	N/A	6.4	6.1	6.1	5.5	5 学部
UNILA	—	—	—	—	—	4.7	1 学部
UNTAN	N/A	N/A	6.3	6.3	6.3	8.2	2 学部
平均	N/A	6.8	6.6	6.4	6.6	6.3	35 学部

*平均: 各学部平均の合計/学部数

1-3) 学生と講師陣 (TS) の数と比率 (学生数/1人の講師)

対象大学		UNSRI	UNAND	UISU	UNSYIAH	UHN	UNLAM
1994	学生数	2,167	866	1,255	1,297	141	520
	講師数	146	66	62	155	37	56
	比率	11.3	19.7	20.2	83.7	3.8	9.3

対象大学		USU	UDA	UMA	UNILA	UNTAN
1994	学生数	2,735	522	913	572	1,230
	講師数	243	28	53	40	91
	比率	11.3	19.7	17.2	14.3	13.5

1-4) S1 学位取得者の雇用状況

年/		UNSRI	UNAND	UISU	UNSYIAH	UHN	UNLAM	USU
1994	民間企業の エンジニア	10	50			89	33	
	大学教員	245	28	N/A	N/A			N/A
	その他	23				21	40	
	学位取得者 総数	278	150			110	73	

年/		UDA	UMA	UNILA	UNTAN	所見
1994	民間企業の エンジニア	61	98			
	大学教員	5	10	N/A	N/A	
	その他	7	97			
	学位取得者 総数	73	205			

B. 成果

1. 講師陣 (TS) の質の向上

1-1) 工学部の学位取得者数

IITU (95年のTS数)	1995年11月					1998年予測	
	S1	S2	S3	S2+3 %	HEDS %	S2+3 %	HEDS %
UNSRI (146)	68	60	18	(78) 53%	(27) 18%	(94) 64%	(37) 25%
UNAND (57)	23	32	2	(34) 60%	(25) 44%	(48) 84%	(27) 47%
UISU (62)	54	8	0	(8) 13%	(7) 11%	(29) 47%	(26) 42%
UNSYIAH (155)	96	54	5	(59) 38%	(21) 14%	(97) 63%	(28) 18%
UHN (37)	16	21	0	(21) 57%	(4) 11%	(24) 65%	(7) 19%
UNLAM (56)	24	32	0	(32) 57%	(13) 23%	(45) 80%	(19) 34%
USU (243)	173	50	20	(70) 29%	(11) 5%	(78) 32%	(13) 5%
UDA (46)	36	9	1	(10) 22%	(9) 20%	(10) 22%	(9) 20%
UMA (53)	34	19	0	(19) 36%	(10) 19%	(33) 62%	(22) 42%
UNILA (40)	31	9	0	(9) 23%	(6) 15%	(18) 45%	(9) 23%
UNTAN (91)	65	26	0	(26) 29%	(18) 20%	(34) 37%	(11) 12%
平均 (986)	620	320	46	(366) 37%	(151) 15%	(510) 52%	(208) 21%

* HEDS%: (HEDS がスポンサーとなっている S2+S3) / 全講師陣 × 100

* 1998年予測: 教員数が変わらず、現在研究している講師陣全員が学位を獲得すると仮定した場合、1998年におけるパーセンテージの予測。

1-2) ITB の S2 学生の修業年限

ITB 全体	3.6 年
HEDS 参加者	2.9 年

* これは HEDS の援助を受ける S2 学生 (1 組のみ) が ITB で学位プログラムを完了するために要求される平均継続期間である。

1-3) 参加者数と短期研修コースの開催数

年	コースの開催数		参加者数	インドネシア人講師 の数	日本人講師 の数
		政府*			
1990	3	1	104	27	7
1991	18	9	496	135	9
1992	28	17	767	N/A	6
1993	41	27	868	105	13
1994	24	14	627	133***	17
1995	19(**24)	5	375	47***	6
合計	133	73	3,237	N/A	58

* JICA の資金援助なしに開催されるコースの数

** 1995 年に開催を計画された数

*** インドネシア人講師ほぼ全員に要する費用の大半は、PUM に従ってインドネシア政府/HEDS 対象大学が負担した。

1-4) 日本研修

年	参加者 総数	分類別参加者数				分類別 M/M			
		学位*	最上 級生*	運営 管理*	教育 政策*	学位*	最上 級生*	運営 管理*	教育 政策*
1990	21	-	-	18	3	-	-	15.4	0.7
1991	23	-	10	13	-	-	43.0	6.1	-
1992	30	9	16	5	-	152.6	278.4	5.3	-
1993	30	23	7	-	-	135.7	36.3	-	-
1994	30	28	2	-	-	167.0	12.5	-	-
1995	15(**25)	14	1	-	-	84.0	6.0	-	-

** 1995 年に計画された数

* 学位:HEDS 学位プログラムの S2 学位取得者数

* 最上級生:最上級特別研究生数

* 運営管理:大学の運営管理の参加者数

* 教育政策:教育政策の参加者数

2-1) コア・ラボラトリーの利用

大学	学生		教授陣の研究	
	コースの研究	論文	SDPF	その他
UNSRI	1	2	0	0
UNAND	4	0	4	1
UISU	3	0	5	1
UNSYIAH*	3	0	4	0
UHN*	1	0	0	0
UNLAM*	0	0	0	0
USU	0	0	0	0
UDA	2	0	1	0
UMA	0	0	3	0
UNILA	0	0	0	0
UNTAN	3	0	2	1

2-2) コア・ラボラトリーに任命された職員

	UNSR I	UNA ND	UISU	UNS YIAH	UHN	UNL AM	USU	UDA	UMA	UNIL A	UNT AN
講師陣の数	2	2	4	5	1	6	6	2	4	1	2
技術者数	0	2	1	3	0	3	1	0	0	2	2
助手の数	2	10	2	5	5	3	4	7	4	4	2

2-3) コア・ラボラトリー書類

	UNSR RI	UNA ND	UISU	UNS YIAH	UHN	UNL AM	USU	UDA	UMA	UNIL A	UNT AN
設備のリスト	○	○	N/A	○	N/A	○	○	○	○	○	○
コア・ラボラ トリーの活動 規則	○	×	○	○	×	○	○	○	○	×	○

3. 研究活動

3-1) SDPF

大学	申請					許可					PMUに提出された 研究レポート				
	FY 91	FY 92	FY 93	FY 94	FY 95	FY 91	FY 92	FY 93	FY 94	FY 95	FY 91	FY 92	FY 93	FY 94	FY 95
UNSRI	9	13	50	56	35	7	11	26	20	15	7	11	26	19	*
UNAND	5	11	14	19	20	5	5	4	13	10	5	5	4	13	*
UISU	2	11	9	6	14	2	2	3	4	3	2	2	3	4	*
UNSYI AH	10	23	49	38	62	6	16	18	20	31	6	16	18	18	*
UHN	0	8	9	9	9	0	4	3	5	3	0	4	3	5	*
UNLAM	0	2	3	6	5	0	2	2	2	3	0	2	2	1	*
USU	4	5	15	21	28	3	3	9	11	12	3	3	9	9	*
UDA	1	6	0	8	13	1	2	0	3	3	1	2	0	3	*
UMA	1	3	10	12	11	0	1	4	7	4	0	1	4	7	*
UNILA	1	5	10	10	7	1	2	6	3	6	1	2	4	3	*
UNTAN	1	1	14	27	23	1	0	9	11	11	1	0	9	11	*
11 大学の 合計	34	88	183	212	227	26	48	84	95	101	26	48	82	93	*

* 1996年3月にPMUへの提出が予測される。

3-2) その他の研究活動

a) FY89-FY95 に行われた研究

	UNSR I	UNA ND	UISU	UNSY IAH	UHN	UNLA M	USU	UDA	UMA	UNIL A	UNTA N
DGHE (1)	37	-	-	52	-	17	17	6	-	-	14
SPP/DPP (2)	56	8	-	20	11	26	-	-	-	15	18
KORPO R. (3)	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
JAJASA N (4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自費 (5)	-	-	7	-	-	-	-	-	9	-	-
民間企 業など (6)	18	-	1	1	-	7	3	-	-	7	-
合計	111	8	11	73	11	50	20	6	9	15	32

- (1) DGHE: DGHE からの OPF、Mandiri 含む
- (2) SPP/DPP: 大学の授業料からの研究資金
- (3) KORPOR. = KORPORATIS: 私立大学のための DGHE の地方部門
- (4) Jajasan: 私立大学を所有する財団
- (5) 自費: 講師陣の個人費用
- (6) 民間企業: 地方政府に要請され、資金提供される研究を含む

b) 年間の研究資金源

大学 資金源	学問的研究								民間企業その他から 要請される研究							
	FY 89	FY 90	FY 91	FY 92	FY 93	FY 94	FY 95*	合 計	FY 89	FY 90	FY 91	FY 92	FY 93	FY 94	FY 95*	
UNSRI	7	13	22	27	0	0	24	93	0	0	1	2	4	8	3	
DGHE	3	6	13	15	0	0	0	37								
SPP	4	7	9	12	0	0	24	56								
UNAND	利用なし							8	8	利用なし						
UISU	2	2	2	2	2	0	0	10	0	0	0	0	0	1	0	
**KOPOR.	0	0	2	0	1	0	0	3								
*自費	2	2	0	2	1	0	0	7								
UNSYIAH	14	4	21	10	12	0	11	72	データ入手不可						1	
DGHE	14	4	7	7	9	0	11	52								
SPP	0	0	14	3	3	0	0	20								
UIN	2	0	3	1	5	0	0	11	行われていない							
UIN	2	0	3	1	5	0	0	11								
UNLAM	7	8	10	5	3	3	7	43	0	0	0	2	2	1	2	
DGHE	0	2	3	0	3	3	6	17								
SPP	7	6	7	5	0	0	1	26								
USU									0	0	0	0	0	0	3	
DGHE	4	4	4	3	2		0	17								
UDA																
DGHE	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	
SPP	0	0	0	0	0	0	0	0								
UMA																
自費	0	0	0	0	0	6	3	9	0	0	0	0	0	0	0	
UNILA																
DPP/SPP	3	2	2	3	2	0	3	15				1	0	3	3	
												*1		*2		
UNTAN	3	3	3	3	3	2	15	32	0	0	0	0	0	0	0	
DGHE	0	0	0	0	0	2	0	2								
SPP	3	3	3	3	3	0	3	18								

* FY95には94年7月から95年11月までに行われた研究が含まれている。

4. コンピューター化

4-1) HEDS の開発したソフトウェア

	ソフトウェア名	内容
昨年の評価 (1994)	1. 講師陣関係	
	① Directory	名前、学部、講師に関する基礎データ
	② Credit Points for Promotion (進級に必要な単位)	進級に必要な単位の取得
	2. 学生関係	
	① Semester Credit Plan	学生名、学期、課程計画、取得の必要な単位数
	② Academic Record	学生名、学期/学年、課程完了、課程結果、履修単位
	③ Directory	名前、学部、入学年、その他
新しい活動	3. 一覧表	
	① (開発中)	(修正中のためインストールされていない)
	1. 講師陣関係	
新しい活動	① 管理情報システム (MIS)	講師陣および活動、ラボラトリーの設備とプログラム、講師陣とラボラトリーに関するその他のデータ
	② PC による教科書開発	

4-2) 開発および適用時期

昨年の評価 (1994)	開発: FY1992 までに適用された 3 つのソフトウェア “Academic Record Management” “Personnel Management” “Inventory Management (修正中)” コンピューターの供給: FY1992 まで (UNILA を除く) *UNILA は FY1991 に供給 TU でのインストール: FY1992 まで (Inventory Management を除く) LAN のインストール: FY1992 まで (UNSYIAH、UNILA を除く)
	新しい活動
新しい活動	- PC による教科書開発
	- 管理情報システム (MIS)

4-3) 各 TU の管理のコンピューター化およびコンサルティングのための研修

年	課程数	課程名
FY1991	2	①ソフトウェアのオペレーション ②ソフトウェアのオペレーション
FY1992	2	①ソフトウェアの開発 ②ソフトウェアの開発
FY1993	4	①ソフトウェアの開発 ②ハードウェアの維持 ③システムの分析 ④ (UNTAN)
FY1994	-	対象大学との個人レベルでの協議**
FY1995	-	UDA が要請しているように LAN システムの協議
合計	-	...

* 各大学での協議は上記セミナー/ワークショップが開かれる時に行われた。

** 現在 HEDS は個人のアフターケアの相談に専念している。

4.4) データ入力

大学	ソフトウェア	1990年以前	1990/91	1991/92	1992/93	1993/94	1994/95	1995/96
UNSRI	講師陣		○	○	○			N/A
	学生			○	○			N/A
	一覧表							N/A
UNAND	講師陣			○	○			○
	学生							○
	一覧表							○
UISU	講師陣			○	○	○		○
	学生				○	○		○
	一覧表							
UNSYIAH	講師陣					○		○
	学生					○		○
	一覧表							
UIIN	講師陣			○	○	○		
	学生			○	○	○		
	一覧表							
UNLAM	講師陣				○	○		
	学生				○	○		○
	一覧表							
USU	講師陣				○			○
	学生			○				○
	一覧表							
UDA	講師陣		○					
	学生		○					
	一覧表							
UMA	講師陣			○	○			○
	学生			○	○	○	○	○
	一覧表							○
UNILA	講師陣			○	○	○	○	○
	学生	○	○	○	○	○	○	○
	一覧表							
UNTAN	講師陣			○	○	○	○	○
	学生			○	○	○	○	○
	一覧表							

* 講師陣:講師陣関係、学生:学生関係

5. 教科書

5-1) 各年度の出版数*

種類	1990-91	1991-92	1992-93	1993-94	1994-95	1995-96	合計
教科書	5	2	6	24	43	0 (12)	92
資料	0	0	0	0	1	2 (8)	9
参考書	0	1	8	4	15	0 (1)	29

* HEDSプロジェクトの下で作成された教科書、資料、参考書で、ここに含まれないものもある。

6. ネットワーク

6-1) コア・ラボラトリー・グループ

目的: メダンのコア・ラボラトリーの管理に参加し、ユーザー・グループの形成を進めることによって、その活用を促進すること。

メンバー: メダンの対象大学の学部長、副学部長、コア・ラボラトリーの長、工学部の講師陣。

主要な活動: 鋳造、デジタル管理、生産技術など、各分野の会議を開くこと。

開催された会議: メダン・コア・ラボラトリー・グループは1993年に活動を開始した。1993年に開催された会議数および参加者数を以下に示す(1994年、1995年には会議は開かれていない)。

	鋳造	デジタル管理	生産技術	合計
開催会議数	3	1	1	5
参加者数	不明	13	10	不明

* メダン・コア・ラボラトリー・グループの発足会議はメダンの HEDS プロジェクトのオフィスで1993年5月に開催され、上記の全分野のメンバーが参加した。この会議は上の表に含まれていない。

* 鋳造グループの2回の会議の総参加者は20人だが、あと1回の会議の参加者は不明である。

6-2) SDPF セミナー

目的: 講師陣に SDPF による研究の成果を発表する機会を与えること。

参加者:

- a) 前年に SDPF から支援を受けた人
- b) 日本研修の参加者(前年)

主要な活動: 参加者の行った研究成果の発表

開催された会議:

	FY	場所	日数	発表者	解説者
第1回セミナー	1992	USU	2	33	4
第2回セミナー	1993	UNAND	3	51	3
第3回セミナー	1994	Batam	3	83	4
第4回セミナー	1995	USU	3	137	4
合計				304	15

6-3) 工学部セミナー

目的: 講師陣に研究の成果を発表する機会を与えること
 参加者:
 主要な活動: 参加者によってなされた研究成果のプレゼンテーション
 開催された会議:

	FY	場所	日数	発表者	解説者
第1回セミナー	1993	USU	3	64	3(ITB)
第2回セミナー	1994	UHN	6	44	不明
合計					不明

* HEDSは1995年に工学部セミナーの開催の予定はない。
 現在のプロジェクトは、工学専門分野に焦点を合わせたセミナー（「短期トレーニング」のもとに）に力を入れている。

6-4) ワーキング・グループ会議

目的: 対象大学での教育および研究活動の向上に関する研究を行うこと。
 メンバー: 対象大学の学部長、ラボラトリーの長、講師陣。
 主要な活動: 大学で研究を行うこと、対象大学における教育と研究活動を向上させるために研究成果を交換する会議を開催すること。
 主要な決議事項: コア・ラボラトリー・プログラム、SDPFプログラム、ラボラトリーの活性化
 開催された会議:

	91	92	93	94	95	合計
会議数	2	3	3	3	1	12
参加者数	不明	不明	不明	不明	不明	不明

6-5) その他の新しいネットワーク活動

目的:
 メンバー:
 主要な活動:
 主要な決議事項:
 開催された会議

	94	95	合計
会議数	不明	不明	不明
参加者数	不明	不明	不明

7. HEDS 情報の配布

出版物	名称	実行状況							発行部数	対象
		90	91	92	93	94	95	合計		
定期刊行物	HEDS ニュースレター	0	9	9	4	3	2	27	N/A	対象大学 受け入れ 大学 JICA USAID DGHE その他
	HEDS カレンダー	1	1	2	2	2	1	6	N/A	
	壁かけタイプ	1	1	1	1	1	1	4	N/A	
	卓上タイプ	0	0	1	1	1	1	2	N/A	
	HEDS ダイアリー	0	0	0	0	2	1	3	N/A	
	小型	0	0	0	0	1	1	2	N/A	
	大型	0	0	0	0	1	0	1	N/A	
	パンフレット	1	1	1	1	0	0	4	N/A	
リーフレット	NA	1	1	0	1	0	N/A	N/A		
その他	HEDS 統計	NA	NA	NA	NA	NA	1	NA	N/A	DGHE JICA
	SDPF 会議議事録	0	1	1	1	2	1	6	N/A	

8. 大学管理の改善

8-1) 学長会議

組織の目的: 西部インドネシアの 20 大学の管理の改善

参加者: 20 対象大学の学長、JICA、USAID の専門家、USAID、JICA (ジャカルタ)、その他

主要な討論内容: 前年度の業績および来年度の改善計画

開催された会議数:

	90	91	92	93	94	95	合計
実行数	1	1	1	1	1	1	6

8-2) 学部長会議

組織の目的:プロジェクトの迅速かつ有効な実行

参加者:20 対象大学の学部長、経理責任者、JICA、USAID の大学専門家、USAID、
JICA ジャカルタ・オフィス、その他

主要な討論内容:前年度の業績および来年度の改善計画

開催された会議数:

	90	91	92	93	94	95	合計
実行数	2	2	2	2	2	1	11

8-3) 大学管理セミナー

セミナーの内容:大学の建物について

講師:

参加者:学長、副学長、学部長、その他

開催された会議数:

	90	91	92	93	94	95	合計
実行数	N/A	N/A	N/A	2	3	2	N/A

C. 前提条件

1. 大学の工学教育に対する政府の援助

- 1-1) TMPD (DGHE および世界銀行から資金提供を受ける大学講師陣のための国内研究プログラム) のための予算配分に関しては、工学、経済学、基礎科学の分野が 12 の研究分野の 3 分の 1 を占めている。
- 1-2) DGHE の政策の 1 つは、公立大学 (Politeknik を含む) の工学部学生の割合を、FY1994 から 5 年以内に現在の 14% から 25% に増加させることである。

2. インドネシア経済の着実な発展

BAPPENAS

インドネシア経済は相変わらず急速に成長している。経済成長率は昨年よりさらに上回り、7.1%となる見通しである。

3. 職業紹介/経済発展センター

センター:USU、UMA、UNSYIAH、UDA、UISU、UHN、UNRI、UNILA、UNIB

センターの目的は大学と商工業界の間につながりをつけることである。センターの実際の活動には次のようなものがある。a) 学生および雇用者に職業紹介サービスを提供する。b) 卒業前に学生に職業体験 (実習訓練期間、協同教育) をさせる。c) 技術/研究の助言サービスを開始し、民間部門にすでに雇用されている労働者のための契約研修の便宜を図る。

USAID

1) 職業紹介センター (JPC)

9 つの JPC のうち 8 つが現在活動中である。JPC の職員は、「連結と調和」を促進するために、民間企業および商工会議所を訪問している。

2) 業績

8 つの職業紹介センターの助力により、1995 年 8 月時点で、次のような業績が達成された。

- 296 人の学生が民間企業の実習訓練に参加した (うち 18% が女子)。
- 295 人の学位取得者が JPC を通じて就職できた (うち 19% が女子)。しかし、このうち工学部出身者が何人であるかは不明である。

— 4,684 人の学生が JPC に登録している。

3) その他

USAID は USAID の援助期間が 1996 年 7 月で終了した後、JICA が JPC の援助を引き継ぐことを希望している。JPC には引き続き援助が必要であることがわかっているからである。

PMU/HEDS-USAID

1) JPC のサービスを受けた工学部学生／卒業生 = 203

2) JPC サービス (上述) を提供している大学、USU、UNSYIAH、UNILA

3) サービスのタイプ

- * MIS* (実習訓練の候補となる職業の選別)
- * 職業紹介
- * 実習訓練
- * 研修 (職業調査技術、雇用可能先の短期コース)
*管理情報システム

4. 基礎科学の教授法の質的向上

HEDS-USAID は、数学および基礎科学の教授法と学問の質を向上させるために、以下のような戦略をとっている。

- 1) 当事者研修 (学位プログラムを含む)
- 2) 管理スタッフの USAID への短期派遣
- 3) セミナー
- 4) 講師陣の実習訓練
- 5) 学部の交替 (実習生のための専門学部を用意する)

当事者研修 (学位プログラムを含む)

USAID の全予算の 60% (2,000 万ドル) は、このプログラムに割り当てられている。1995 年 9 月現在、164 人の講師がさらに進んだ学位課程を修めるためにアメリカに派遣された (S2:142 人、S3:22 人)。このうち、126 人は大学院学位を取得した (S2:109 人、S3:17 人)。研修期間は以下の通りである。

修士課程は2年、博士課程は3年。

教授法と学問の質を向上させるための上記の活動のインパクトあるいは業績は、まだ評価されていない。1994年2月に行われた中間評価のレポートの中で、USAID-DGHEの評価チームは以下のように述べている。

「重要な問題は、アメリカ研修を受けた帰国者の多くが教職に就かなかつたり、アメリカで獲得した高度な教授技術を利用することができないことである。これは才能と費用の浪費である……」

USAID

初期段階でのプログラムの準備および開始に当たっては、以下のような調整が可能で効果的であった。

1) 長期的な技術アドバイザーのガイダンス (LTA)

アメリカから帰国した学位プログラム参加者は続いて LTA のガイダンスを受ける。LTA はインドネシアの5つのプロジェクト実行地域で巡回して開かれる。

2) 研究レポートの書き方のガイダンス

研究提案の書き方のために、6週間の短期研修が準備されている。研究は対象大学の講師陣の能力が強化されるべき分野であり、かつ強化の可能な分野でもある。

3) カリキュラム/教授資料

カリキュラムおよび教授資料の開発も、LTA によって進められ、対象大学での基礎科学教育の向上に役立てられてきた。資料が開発されたことは知っていても、実際の活用法は知られていない。USAID はそのことにインパクト・持続可能性 (サステイナビリティ) 協議会で気づくだろう。

4) コンソーシアム

HEDS プロジェクトの実行を通して、対象大学の地域連合を設立することが重要である。

5. 講師陣の50%以上が大学に留まる。

最近5年間に仕事を辞めた講師の比率

大学	UNS RI	UNA ND	UISU	UNS YIAH	UHN	UNL AM	USU	UDA	UMA	UNI IA	UT AN
退職講師数 1990-1994.7	1	調査 なし	5	0	0	0	0	20	2	0	2
退職講師数 94.7-95.11*	1	0	0	0	1	0	0	1	2	N/A	0
退職者合計	2	0	5	0	1	0	0	21	4	5	2
講師数合計	146	66	62	155	37	56	243	28	53	40	91
比率 (%)	1.4%	-	8.0%	0%	2.7%	0%	0%	75%	7.5%	-	2.2%

*学位/日本研修プログラムに参加した後に退職した講師

6. 給料は低い

- 6-1) インドネシアの公立大学講師の標準給料は、システムが変わったことにより 1993 年に引き上げられた。以前は「基本給」だけだったが、1993 年に「職能給」が加えられた。
- 6-2) この対策のため、公立大学講師は現在、他の公務員に比較し、約 2.5 倍もの高給を受け取っている。

7. 民間部門との給料の差は広がらない

PMU/HEDS-JICA

公立大学の教員の給料構造（基本給と職能給で構成されている）は昨年と同様である。大学教師の基本給の年間増加率は約 10% であるが、民間部門の従業員の給料ははるかに速いペースで引き上げられる。現在、SI 学位取得者は民間部門では月収が約 1,000,000 ルピアだが、大学教師では約 300,000 ルピアにしかない。

インドネシアの伝統ある一流の大学の教師は通常、大規模な研究プロジェクトに関わっており、その研究の報奨金を受け取ることもある。しかし、HEDS-JICA の対象大学ではそういうことはない。したがって、II 対象大学にとっては、研究プロジェクトを委任してくれる地域企業とのつながりを深める努力をすることが不可欠である。

8. 工学部教師のインドネシア政府 (GOI) 援助研究活動

- 8-1) インドネシアの全大学に不可欠の要素として、GOI は大学の研究活動を強力に支

援している。

8-2) GOI は大学の研究活動を促進するために、以下のようなプロジェクトを提供している。

(HEDP、URGE、研究方法論に関する ADB プログラム、6 大学開発プログラム、11 大学開発プログラム、その他)

8-3) GOI は将来もこの政策を継続する。(プロフェッサー-Koswara)

9. 講師がより進んだ学問を行うために十分な援助を行う。(S2/S3)

9-1) DGHE は FY1999/2000 までにインドネシア全公立大学の S2/S3 取得者の割合を 30% から 50% に増やす計画である。(プロフェッサー-Harsono)

9-2) GOI は大学講師に対し、S2/S3 を取得するための奨学金 (TMPD) を提供している。FY1994 には 1,859 人がこの奨学金を受けている。(プロフェッサー-Harsono)

9-3) 1) 工学 2) 経済 3) 基礎科学の分野に支給された奨学金は全体の約 33% を占めている。(プロフェッサー-Harsono)

前提条件

— 各人に対して適正額の奨学金が学位課程のために支給された。

PMU/HEDS-JICA

1995/96 年に HEDS 学位プログラムの参加者に与えられた資金援助額は、1994/95 年と同じである。政府の意図は、金額を増やすのではなく、できる限り多くの大学教員に機会を与えることである。

TMPD も HEDS 学位プログラムとほぼ同レベルの資金援助を行っているが、金額は少ない。政府は現在、さまざまな学位プログラムが提供する奨学金の額の差を縮小することを考えている。

— II 対象大学からは十分な人数が学位課程を志願している。

— 研修プログラムは日本支援委員会がバックアップしている。

D. 投入

1. インドネシア側

(1) 地域費用

(×100 万ルピア)

費用/年	90/91	91/92	92/93	93/94	94/95	95/96	合計
PMU オフィス	N/A	223	278	480	641	967	N/A
学位プログラム	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
セミナー	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
その他	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
合計	430	676	3,481	4,645	4,875	(*2,296)	16,403

* この数字には OECF ローンからの予算は含まれない。調査の時点では、この種の 1995 年予算に関する情報は入手できなかった。

(2) 人員

(MY#)

人員/年	90/91	91/92	92/93	93/94	94/95	95/96	合計
エグゼクティブ・ディレクター	1	1	1	1	1	1	6
コーディネーター*	1	1	1	1	1	1	6
セクレタリー	1	1	1	3	3	3	12
その他	3	3	4	5	5	5	25
合計	6	6	7	10	10	10	49

*HEDS-JICA のみ

#MY:人年

2. 日本側

(1) 人員

(短期専門家を除く MY)

人員/年	90/91	91/92	92/93	93/94	94/95	95/96	合計
長期専門家	4	4	5	5	4	4	21
短期専門家	8	9	11	18	34	(29)	109 専門家
セクレタリー	1	3	3	6	5	5	23
その他	2	3	3	3	4	4	19

(2) 日本研修プログラム

(人)

日本研修	90/91	91/92	92/93	93/94	94/95	95/96	合計
参加者	21	23	30	30	30	25	139

(3) 設備支給

(×1,000 円)

設備/年	90/91	91/92	92/93	93/94	94/95	95/96	合計
プロジェクト・ タイプ	52,591	255,567	278,347	100,249	78,574	(60,000)	825,373

(4) 地域費用

(×1,000 ルピア)

地域費用	90/91	91/92	92/93	93/94	94/95	95/96	合計 (91-92/ 95/96)
循環場所費用	44,626	215,622	278,991	319,365	1,246,554	(452,809)	2,557,967
LLDC 手当	0	16,761	15,708	15,017	48,116	(0)	95,602
地域研究 (1) 教育開発	0	61,554	82,818	68,709	268,640	(96,452)	578,173
地域研究 (2) 大学管理	12,103	68,114	108,225	69,345	41,354	(15,380)	314,521
地域研究 (3) SDPF	0	110,116	260,985	336,330	368,414	(188,976)	1,264,821
テクノロジー 普及促進	6,448	113,369	103,814	103,424	89,976	(25,976)	443,007
プロジェク ト・セミナー	0	258,505	212,353	201,555	278,254	(133,166)	1,083,833
テクノロジー 交換	0	29,111	33,694	40,320	103,960	(47,928)	255,013
緊急対策	0	0	24,950	0	0	(267,833)	292,783
教科書開発	17,570	110,747	232,659	216,823	532,864	(224,333)	1,334,996
スライド・ フィルム	0	0	0	0	0	(43,500)	43,500
合計	80,747	983,899	1,354,197	1,370,888	2,978,132	(1,496,333)	8,264,216

(5) 参加者1人当たりの月額費用 (HEDS/文部省学位プログラム)

HEDS-JICA (国内)	HEDS-USAID (アメリカ)	文部省 (日本)
--S2 志願者 300,000 ルピア (学生)	不明	--S2/S3 学生 4,789,130 ルピア = 220,300 円 (学生)
250,000 ルピア (ITB)		+
550,000 ルピア		公立大学
--S3 志願者 375,000 ルピア (学生)		授業料不要
300,000 ルピア (ITB)		私立大学
675,000 ルピア		授業料必要

*上記の金額には受け入れ大学への往復の旅費は含まれていない。

JICA

